

文化・芸術

「花篝」

1978年ごろ 紙本彩色
91・7センチ×65・8センチ

加山又造 (1927～2004年)

加山又造は四条・円山派の絵師を祖父、京都西陣の衣装図案家を父にもつ京都の伝統的な家庭に生まれ、幼い時から絵画に親しみました。京都市立美術工芸学校、東京美術学校日本画科に進み、卒業後は山本丘人に師事。山本、上村松篁、秋野不矩ら率いる創造美術に参加し、戦後の画壇で革新的な日本画家として活躍しました。多摩美術大学、東京芸術大学で教壇に立ち後進の育成にも励みます。1997年に文化功労者として顕彰され、2003年に文化勲章を受章。幅広い時代の西洋絵画の手法を斬新に日本画の中に取り入れたほか、60年代以降の装飾性の高い作風には琳派の影響が見られます。

花の下でたかれた篝火（かがりび）で照り映える夜桜を描いた本作。枝垂れ咲く花と燃え上がる炎を左右に配した簡潔な構図ながら、静かな闇夜に、淡く発光するかのような満開の桜の華やかさと渦巻く鮮烈な赤い炎の凄艶（せいえん）さの絢爛（けんらん）たる競演です。本作は、4月18日から常設展示室で展示します。（大倉）

名画の扉

大川美術館日本画コレクションから

